

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立勝北中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

学校教育目標

1. 幅広い知識と教養をそなえ、真理を追究する生徒の育成
2. 豊かな情操と道徳心を培う生徒の育成
3. 健やかな心身を養う生徒の育成

今年度の指導の重点

- ・学習習慣の確立と基礎学力の充実を図る。
- ・道徳的価値の内面化と判断力を育てる。
- ・友を思いやる心情を培い、豊かな情操を育てる。
- ・個性の発見を促し、自己実現の達成を図る。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

<全国 3年生>

国語A、国語B共に県平均を下回っている。  
 国語Bでは「資料を読んで書く」領域の正答率が県平均より高かった。  
 数学A、数学B共に県平均を下回っている。  
 数学A、数学Bでは「数と式」の領域は改善が見られる。  
 理科は知識問題で課題があるが、記述式の問題については県平均を上回っている

<県 1年生>

国語、社会、数学、理科は正答率で県平均を下回っている。  
 国語、社会では基礎学力の改善が見られる。  
 数学では数量や図形の分野が、理科は自然現象の分野が、それぞれ基礎学力の定着が見られる。

【学習状況調査の結果】

平日の家庭での学習時間(1時間以上)の割合が、1・3年生ともに県平均に比べて高い。  
 平日のテレビ視聴時間(3時間以上)の割合が、県平均に比べて1年生も3年生もかなり少ない。  
 平日の読書時間(30分以上)の割合が、県平均に比べて1年生はかなり低いが、3年生はかなり高い。  
 3年生は国語・数学の「授業内容が理解できている」割合が高率である。  
 1年生は各教科共に「授業内容が理解できている」・「教科が好きである」割合が高い。  
 あいさつについて肯定的な回答をした生徒の割合が、1年生は非常に高率で3年生も割合が高い。  
 地域の行事に参加している生徒の割合が、県平均に比べて1・3年生ともかなり高い。

成果と課題

数学ABで「文字式」の重点学習を昨年度末に行ったが、成果が現れてきている。  
 3年生はメディアに触れる時間が以前は多かったが、2時間以上メディアに触れている生徒が、県のデータより少ない。ノーマディアに取り組んできた成果が出てきた。  
 家庭学習の充実し力を入れてきた成果が、現れてきている。[「家で計画を立てて勉強している」割合が県平均や国の平均より高い。]  
 授業以外で30分以上読書をする生徒が70%以上おり、読書が定着してきている。  
 1年生は教科の「授業内容がわかる」と答えている生徒が県平均より国語・社会・数学・理科すべてで5ポイント以上上回っていて、小中連携及び研究の成果が出てきている。  
 3年生は「各教科が好き」「よくわかる」かどうかについて、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答する生徒の割合が、国語・数学共に県平均より高い。  
 毎月の交通立ち番による声かけ運動や地域の恒例行事への参加など、地域との連携が定着しており、あいさつなどについて好結果につながっている。

課題に対応した改善方法

研究テーマである「わかりやすく、魅力的な授業」の取り組みの充実と、「魅力ある授業づくり徹底事業」の活用を進め、授業改善を図っていく。  
 ・生徒指導の機能を生かした授業づくりを進める。  
 ・引き続き、毎日の授業で、最初に「本時の目標」を明示して授業を展開していく。  
 ・グループ学習を取り入れるなど学習形態を工夫して、個々の生徒の活動場面を増やすと共に、応用・思考力や言語活動の充実を図る。  
 ・授業の終わりには「学習のまとめ」「振り返り」の時間を設ける。  
 国語の授業の中で、自分の考えなどを文章化する課題に取り組む場面を増やす。  
 数学における少人数指導を充実させ、コースに合わせた問題演習に取り組む。  
 3年生については10月より基礎基本の定着を図る目的で、5教科の放課後学習を行う。  
 朝読書の取り組みを継続して行うと共に、文化図書委員会の活動と連携して、読書習慣の一層の定着を図る。  
 効果が現れているので、引き続きノーマディアの取り組みを小中連携を通して行う。

取組の検証方法及び検証時期

2年生に学力定着状況確かめテストの実施(11月末～12月)  
 生徒への授業アンケートの実施(学期ごと)  
 校内研修を通じて、授業改善の取り組み状況を教員間で共有

達成目標(数値目標)

国語の古文「歴史的仮名遣い」で本校の正答率を県平均並(75.3%)へ引き上げる。  
 数学の「一次関数 変化の割合」と「確率」を県平均(81.4%、53.4%)と同程度以上まで引き上げる。  
 「理科がわかる」と回答する生徒の割合を県平均(64.7%)以上まで引き上げる。